

大月地域等の過去・現在・ 未来をのぞいたら・・・

会場 大月市民会館
月日 平成30年9月5日

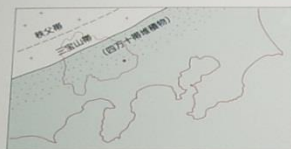
全国歴史研究会本部正会員
大月市郷土研究会会員
小山田信茂公顕彰会会員

小俣 公司

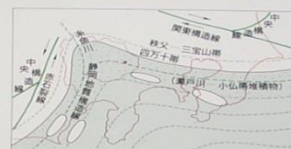
日本のおいたち

新生代	第四紀		④
	第三紀	鮮新世 (500万年)	⑦
		中新世 (2400万年)	⑥
		漸新世 (1700万年)	⑤
		始新世 (5300万年)	②
中生代	白亜紀	晩新世 (6400万年)	③
		ジュラ紀 (1億6000万年)	①
		三疊紀 (1億3000万年)	
		二疊紀 (2億6000万年)	
		石炭紀 (3億6000万年)	
古生代	先カンブリア紀	デボン紀 (3億3500万年)	
		シルル紀 (4億3000万年)	
		オルドビス紀 (5億年)	
		カンブリア紀 (5億7000万年)	
原生代	先カンブリア紀		

- ① 陸地
- ② 海
- ③ 堆積盆
- ④ 大月市
- ⑤ 隆起・沈降軸
- ⑥ 火山活動
- ⑦ 礫岩
- ⑧ 湖沼堆積盆
- ⑨ 花崗岩貫入



① 白亜紀



② 古第三紀



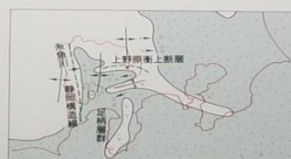
③ 新第三紀中新世前期



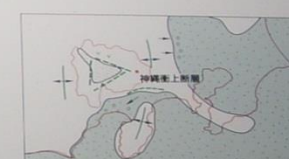
④ 新第三紀



⑤ 新第三紀中新世後期



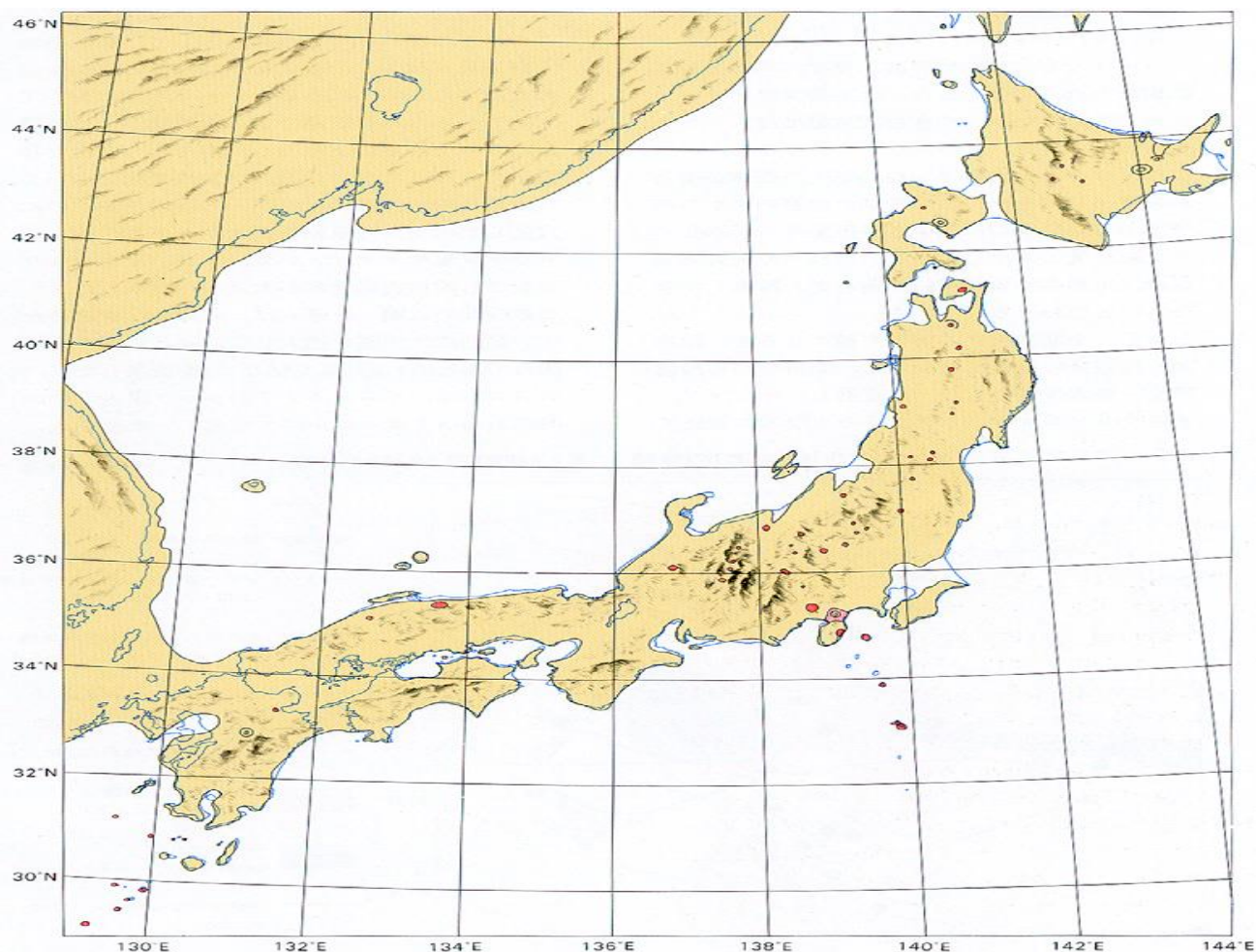
⑥ 新第三紀鮮新世



⑦ 第四紀洪積世前期



⑧ 第四紀洪



当時の火山が噴出した熔岩や火山灰の分布

高温の火山灰や軽石が熱雲流となって噴出した範囲

典型的な氷河時代に入ると、気候は大きな振巾をもって変動し、氷期には、大陸と高山に氷河ができて海面がさがり、間氷期には、氷河がとけて海面はあがった。わが国では、日本アルプスや日高山脈の高山を除けば、陸上に氷河は発達しなかったが、この気候変動にともなう世界的な海面変動の跡が段丘地形となって残されている。前期末から中期初頭にかけて生じた地殻変動によって傾いた中期以前の地層の上に、平らに、段丘構成層が堆積している。間氷期に形成された古い段丘を高位段丘とよび、関東地方では、多摩丘陵や狭山丘陵に分布する屏風が湖層の堆積した地形面によって代表されている。この地形面はまた、原人の生活した時期の面でもあるが、日本に原人が渡来した証拠はない。しかし、北京原人とともに棲息していたオオツノシカやトラなどの周口店動物群は、当時、陸橋だった朝鮮海峡の地

域をとって日本に渡来した。

つぎの間氷期に形成された段丘を中位段丘とよび、関東地方では、横浜付近に分布する下末吉層の堆積面がこれに相当する。この時期の海面上昇、すなわち海進を下末吉海進とよんでいる。

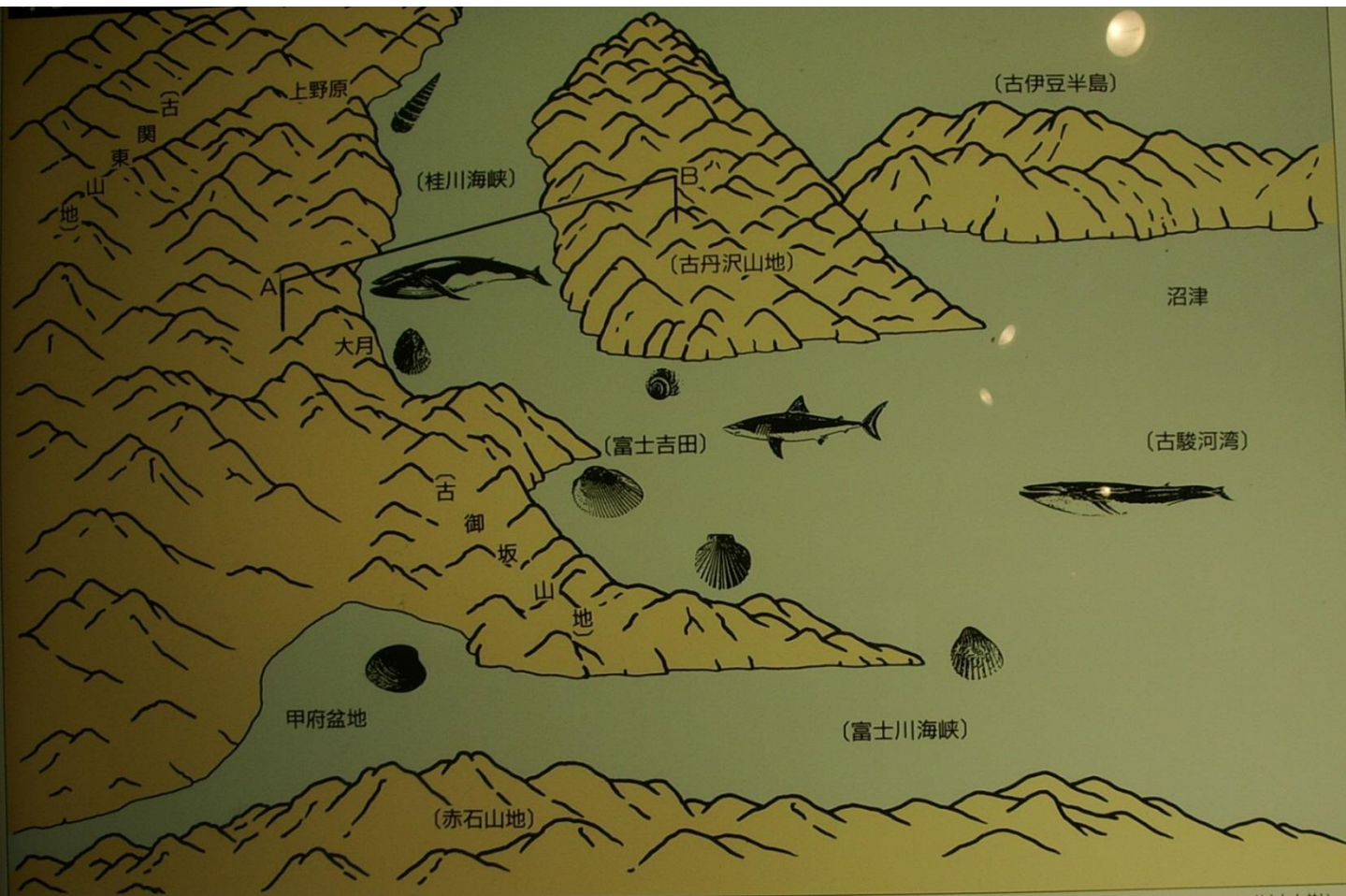
図は、この時期の古地理図を示したものである。当時のナウマンゾウは、陸橋を通して渡来し、海岸附近の低地に棲息していた。また、この段丘面は、旧人の生活面に相当し、日本では確証はあがっていないが、中期末から、後期前半にかけて、特殊化した後期旧人が渡来した疑いはしだいに濃厚になっており、今後の研究が期待される。下末吉海進後の海退期に、日本海沿岸に古砂丘が形成され、日高山脈には、トヨニ・ボロシリ氷期とよばれる山岳氷河がかかっていた。（郷原）



高月橋下、象の鼻(猿橋溶岩流8000年前)



高月橋けた下の柱状列石



現在の大月市付近は、新第三期中新世末から鮮新世
しんだいさんきちゅうしんせい せんしんせい
 (9百~4百万年前)には、古関東山地と古丹沢・御坂・秋山・
かんとうさんち たんざわ みさか あきやま
 道志山地との間に、古東京湾と古駿河湾をつなぐ桂川
どうし するがわん かつらがわ
 海峡が存在し、クジラやサメなどが遊泳し、ウニや貝
かいきょう せいそく
 類も多く生息していました。

A
 (四
 (藤の

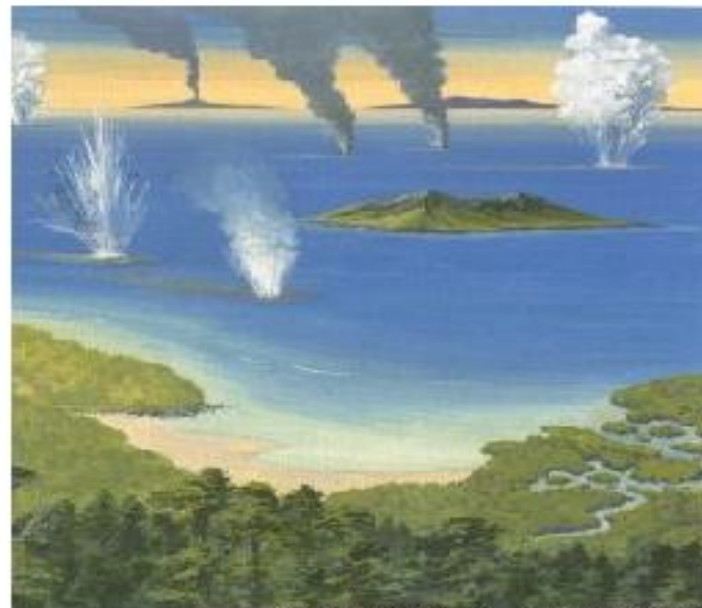


写真は、河口湖で出土した貝の化石





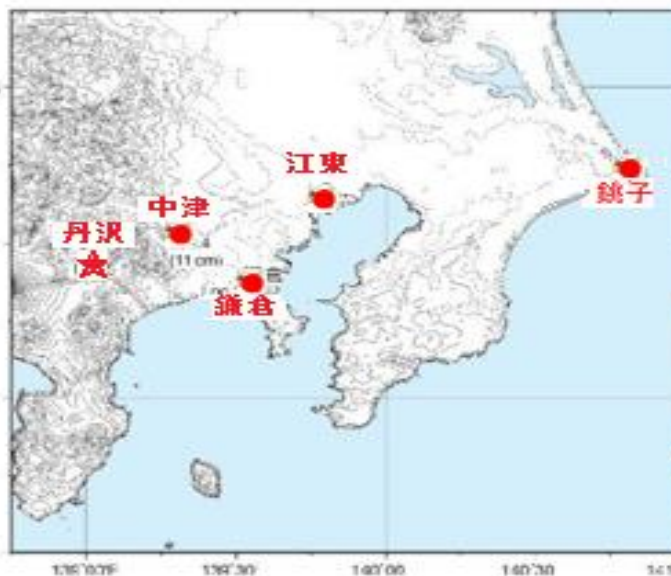
現在の丹沢
500 μ mのざくろ石



約250万年前の丹沢 →

(出典: Wikipedia・早稲田大学)

★ 噴火場所 ● ざくろ石産出地



↑ 江東 地下1000m

銚子屏風ヶ浦 →



ざくろ石(ガーネット)宝石の一つ・硬度七ちなみにダイヤモンドのことです。宝石に詳しい方は、多くのことを知っておられると思います。

堀内弘英氏HPから引用

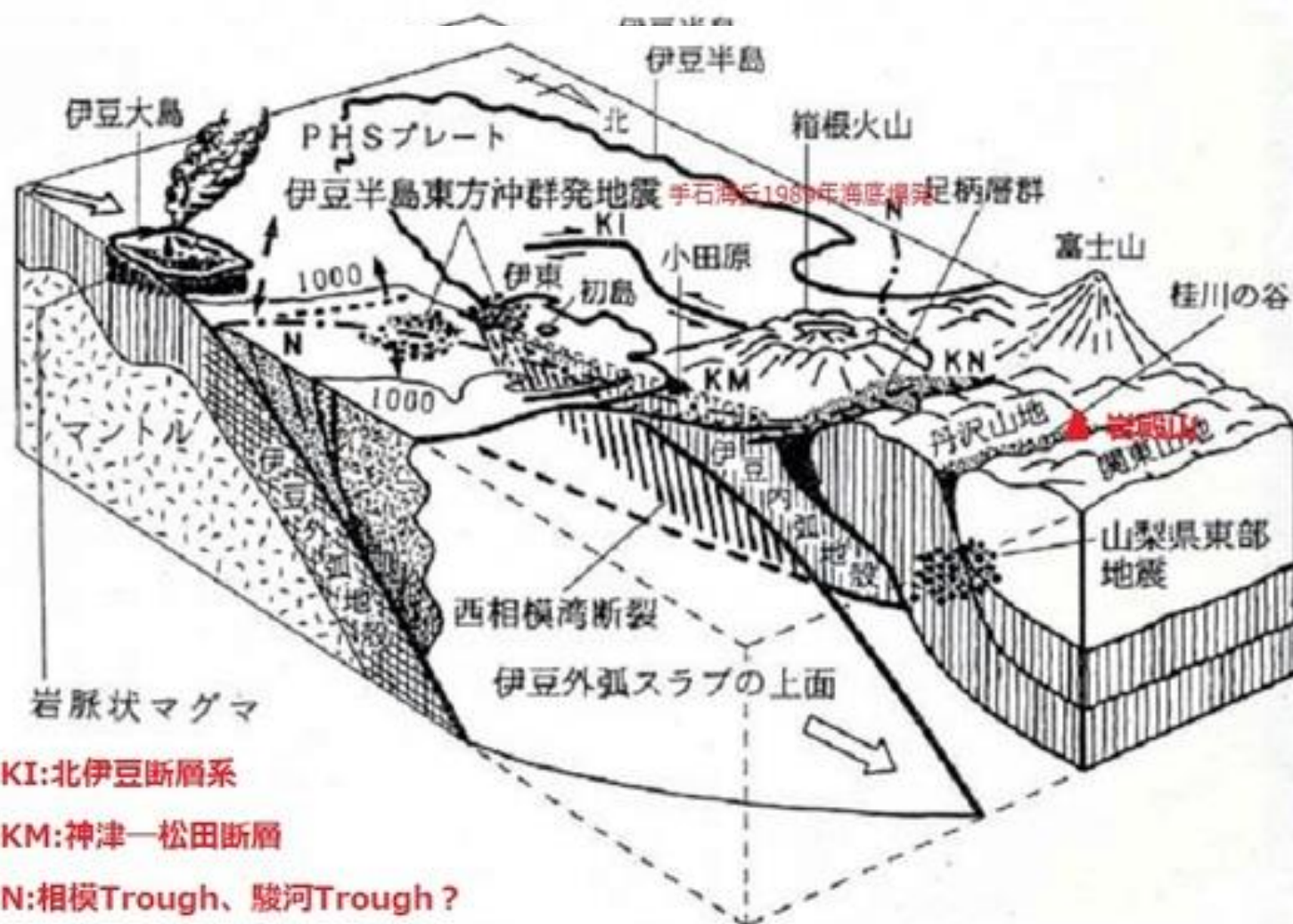
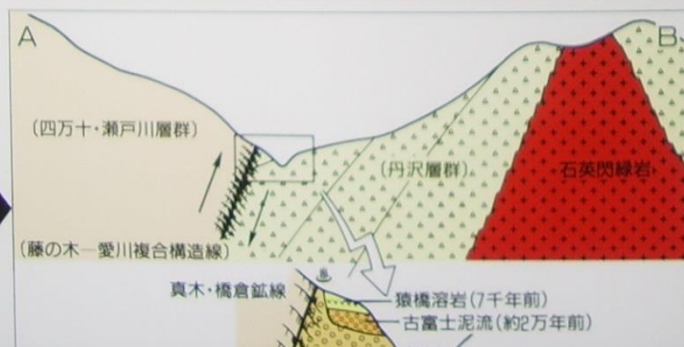


図 6・8 西相模湾断裂周辺の概念図

現在のふるさと



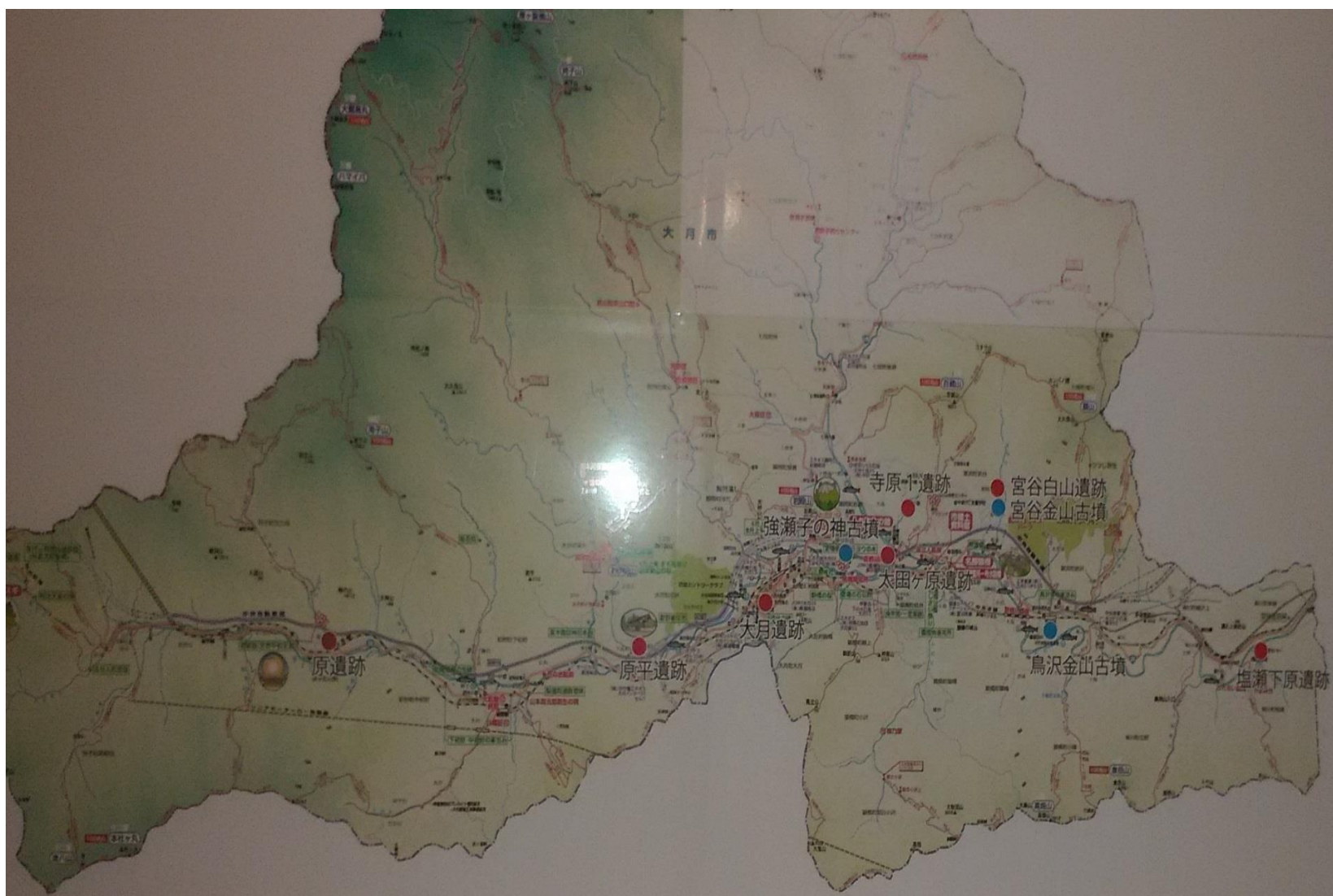
古い日本の基盤の関東山地と新しい日本の基盤の御坂・丹沢山地との間には、新第三期中新世末ごろから、藤の木・愛川複合構造線（現御坂町の藤の木から神奈川県愛川町にかけての断層）に代表される数多くの断層が繰り返し再動し、発達してきました。

その後、関東・東海地域全体が隆起し完全に陸化し、第四期更新世になると古富士火山の泥流が古桂川に沿って流れ、さらに沖積世になり新富士火山の猿橋溶岩も段々堆積し、現在の桂川の河谷により峡谷が形成された。

新世
秋山・桂川
や貝



大月市の遺跡古墳研究成果の一部(第1回から第20回ほど実施)



大月市の主要遺跡分布図

みやたにはくさん

宮谷白山遺跡

遺跡の時代 縄文時代中期

遺跡の種類 集落遺跡

位置図

(富浜町宮谷)



宮谷白山遺跡は、昭和 47 年に大月市が初めて学術的な発掘調査を行った遺跡であり、このことから大月市指定史跡として保存されています。

遺跡の存在は古くから地元では知られていましたが、発掘調査によって縄文時代の竪穴住居跡が確認され、縄文時代

の集落遺跡が付近に拡がっていることが分かりました。

確認された竪穴住居跡は平面が方形をしており、入口の部分が張り出した形状の住居であったと報告されています。

調査を実施した調査団は、3 名の専門家以外は大月市民で組織されました。

現在、調査された竪穴住居は上屋を復元して、復元された住居周辺は公園として整備されています。



発掘

住居

宮谷白山遺跡は、紀元前 9 0 0 0 年前頃からの遺跡
(大月市内で最古の遺跡と言っても過言ではないようです)

生活カレンダー

自然がもたらす恩恵や驚異のなかで生活していた縄文人たちは、季節の変化に応じ、食料を手に入れています。

食物としての素材の種類はかなり多く、食べられるものは何でも食べていました。

季節によってとれなくなる食品もあり、特に海のない山間に暮らす人達にとっては生活の安定のためには、貯蔵食品の備蓄も重要な仕事でした。

狩猟や採集、冬に備えての住居の補修や建替え、土器づくりなどの仕事は、経験で知った年間の生活のリズムに合わせて行なわれていました。

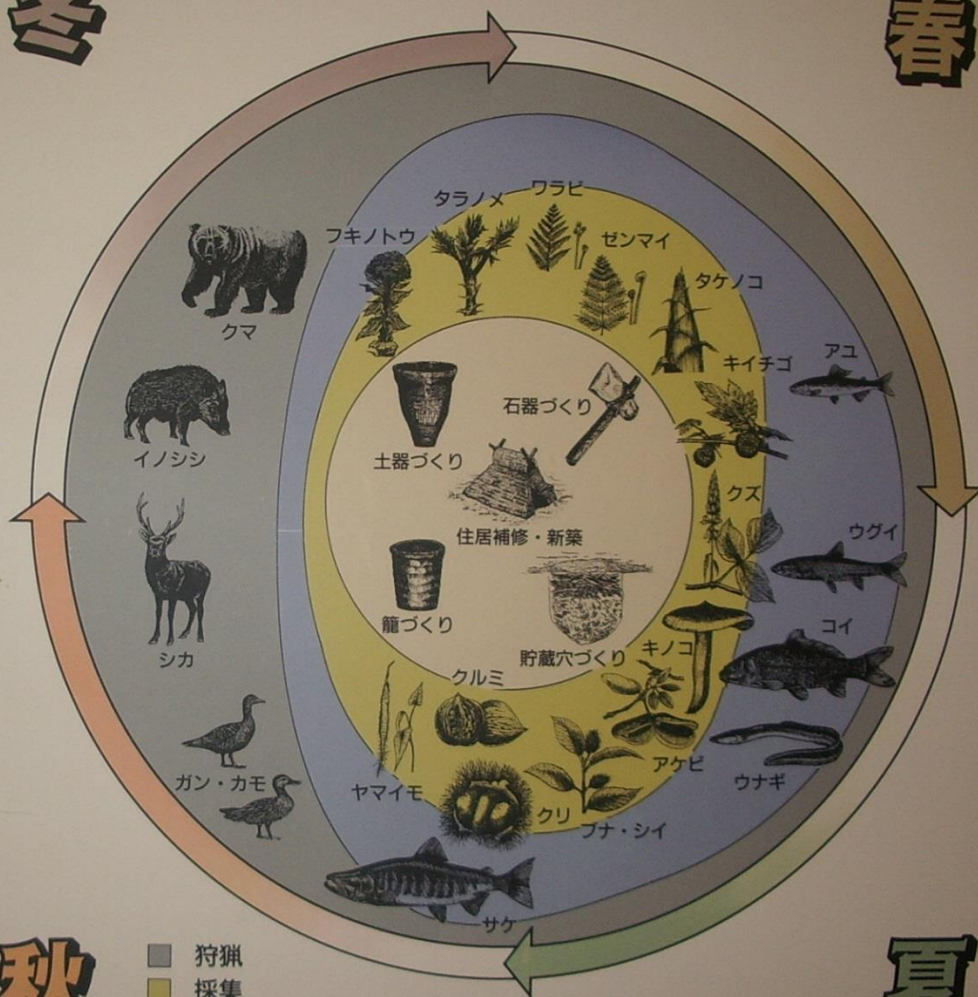
冬

春

秋

夏

- 狩猟
- 採集
- 漁撈



春



夏

縄文土器・石器のつくりかた

土器を使用する以前の調理法は、「生」か「焼く」が主でしたが、土器の使用によって、「煮炊き」という調理ができるようになり、食べられる食物の種類は大幅に増えることになりました。

また、その食料を確保するための石器は、縄文人にとって生活の必需品でした。



土器



粘土をよくこねます



形をととのえます



縄や棒を使って
もようをつけます



ひも状にのばします



粘土で輪をつくり
積み重ねて形をつくります



乾燥させたら、火の中に入れて焼きます



石器



直接打法

原石にじかに石などをぶつけて
かたちをつくっていきます



押圧剥離法

角や骨などを原石のはじに押し当て
はがしとっていきます

縄文の竪穴住居実は土屋根？
平成三十年六月十三日読売新聞記事



発掘調査の様子



復元された竪穴住居



この中へ入らないで下さい



勝坂遺跡笹葺住居



勝坂竪穴住居土屋根



勝坂遺跡(約5000年前の遺跡
ここから出土した土器を勝坂土器(縄文
土器)と言い似た形状を持つ土器を総
称して言う)

この遺跡のある場所は、相模原市下溝
地区と言う場所です。





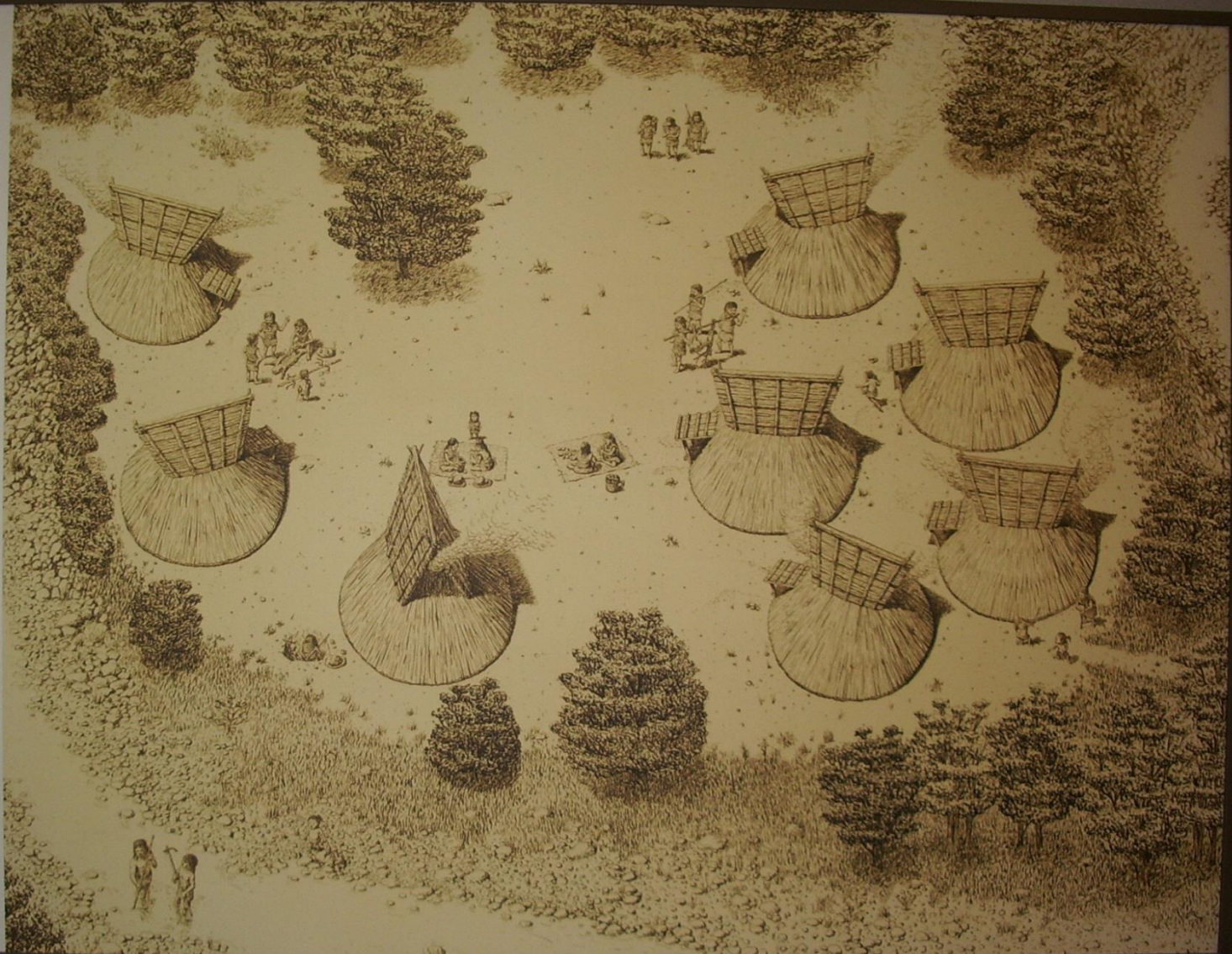




集落のようす

縄文時代の人々は、日当たりの良い場所、水利の良い場所、食料となる動物や木の实がとりやすい場所を選んで、集落をつくっていました。

現在大月市域には、100箇所以上の縄文時代の遺跡が発見されていますが、このことは狩猟や採集など、自然に頼って生活していた縄文人たちにとって、大月の気候風土がとても適していたことを物語っています。



しおせしたつばら

塩瀬下原遺跡

遺跡の時代 縄文時代中期～後期

奈良時代・平安時代

遺跡の種類 集落遺跡

位置図

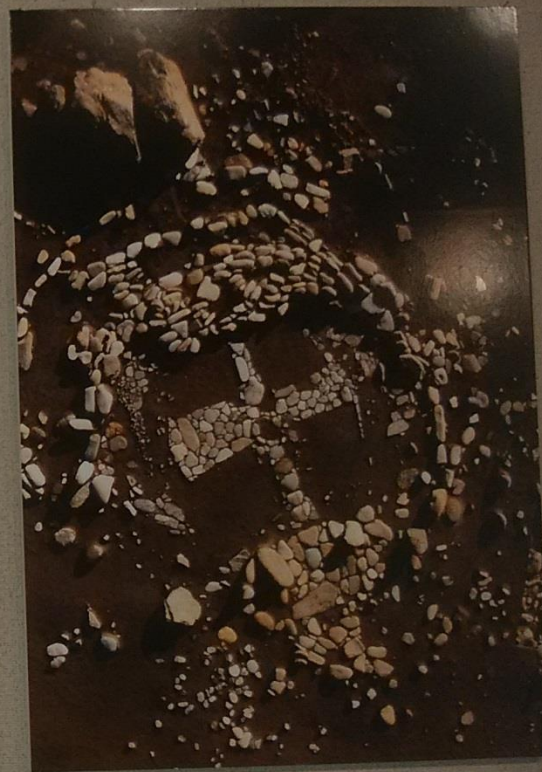


塩瀬下原遺跡は、桂川流域下水道終末処理場（清流センター）建設に伴って、平成7年から平成11年にかけて発掘調査がおこなわれた遺跡です。

調査によって、縄文時代中期（約5,000年前）～後期（約4,000年前）、

の住居跡や平安時代の竪穴住居跡が確認され、この場所に集落があったことが分かりました。

また、平成10年から実施された発掘調査では、住居の床に炉を中心に十字型に平らな石を敷いた特異な形の住居が確認されており、注目されます。1号敷石住居と名付けられたその遺構は、平面の形が柄鏡えかがみのような形をしており、円形の部分の直径が約9.5mというとても大きな遺構です。1号敷石住居のような十字型の敷石をもつ敷石住居は珍しく、日常的な住居というよりも、祭祀に関係する遺構であると考えられます。



4次調査で確認された1号敷石住居

大月市の古墳

大月市には、かつて10基以上の古墳があったと伝えられていますが、現在では開発によって強瀬子の神古墳以外はすべて消滅しています。

いずれも直径10m未満で、横穴式石室という石室をもつ7世紀代（約1,100～1,200年前）の古墳であったと考えられています。



強瀬子の神古墳



強瀬子の神古墳の石室内部



大月市の主要遺跡分布図







おおつき

大月遺跡

遺跡の時代 縄文時代中期～後期

奈良時代・平安時代

遺跡の種類 集落遺跡

位置図



大月遺跡は、明治34（1901）年に発見された遺跡で、地点を変えて現在まで11回の発掘調査が行われています。

発掘調査によって、縄文時代中期（約5,000年前）～後期（約4,000年前）、奈良・平安時代の竪穴住居や掘立柱建物

が多数発見され、縄文時代中期～後期、奈良・平安時代の集落であったことが分かりました。

平成6年に実施された第6次調査では、平安時代の大型の掘立柱建物跡が確認されており、この遺跡が古代都留郡衙（古代の役所）であった可能性も推測されています。



遺跡の時

遺跡の種
位置

塩瀬下
処理場（
平成7年
査がおこ
調査に
5,000年



この中へ入らないで下さい



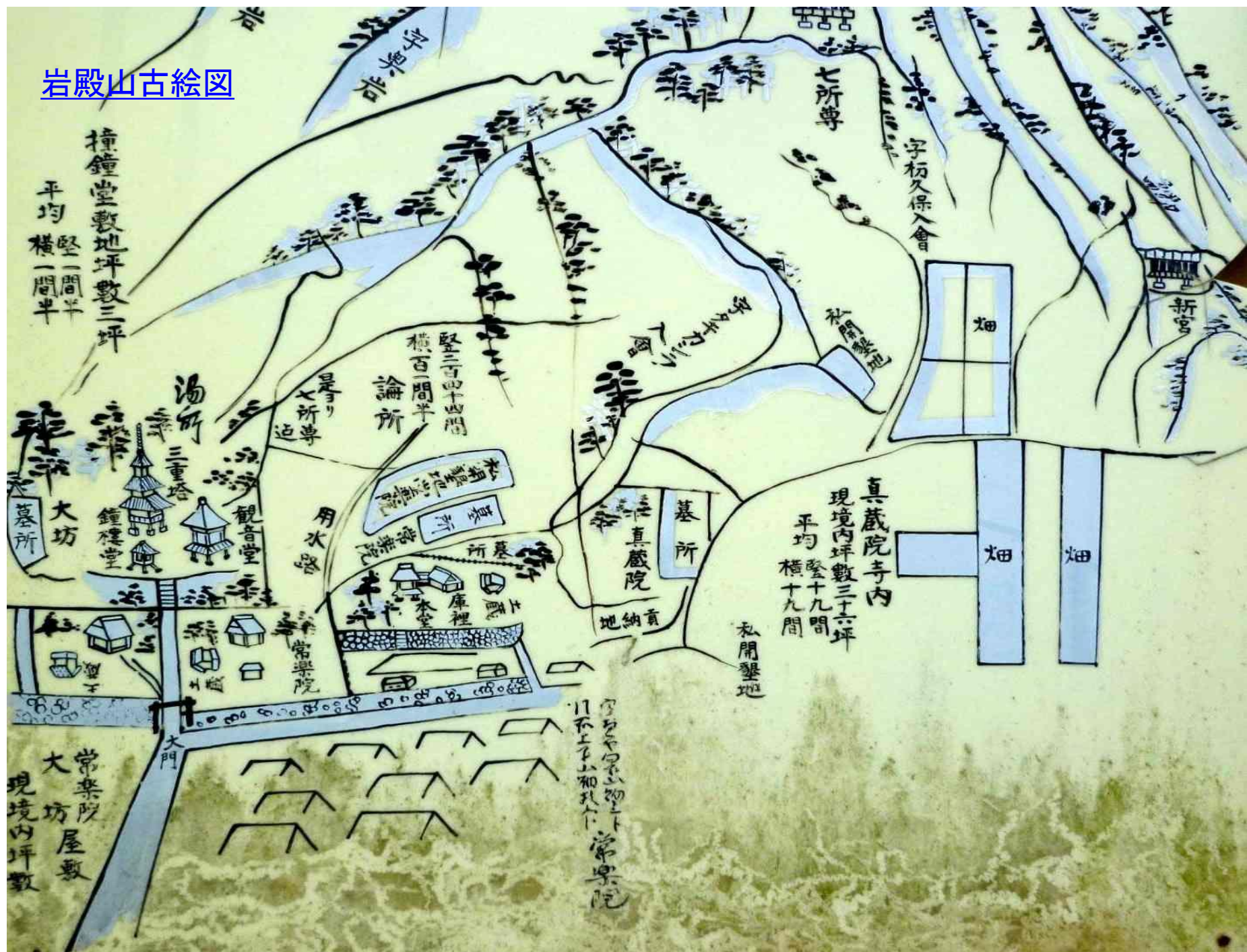




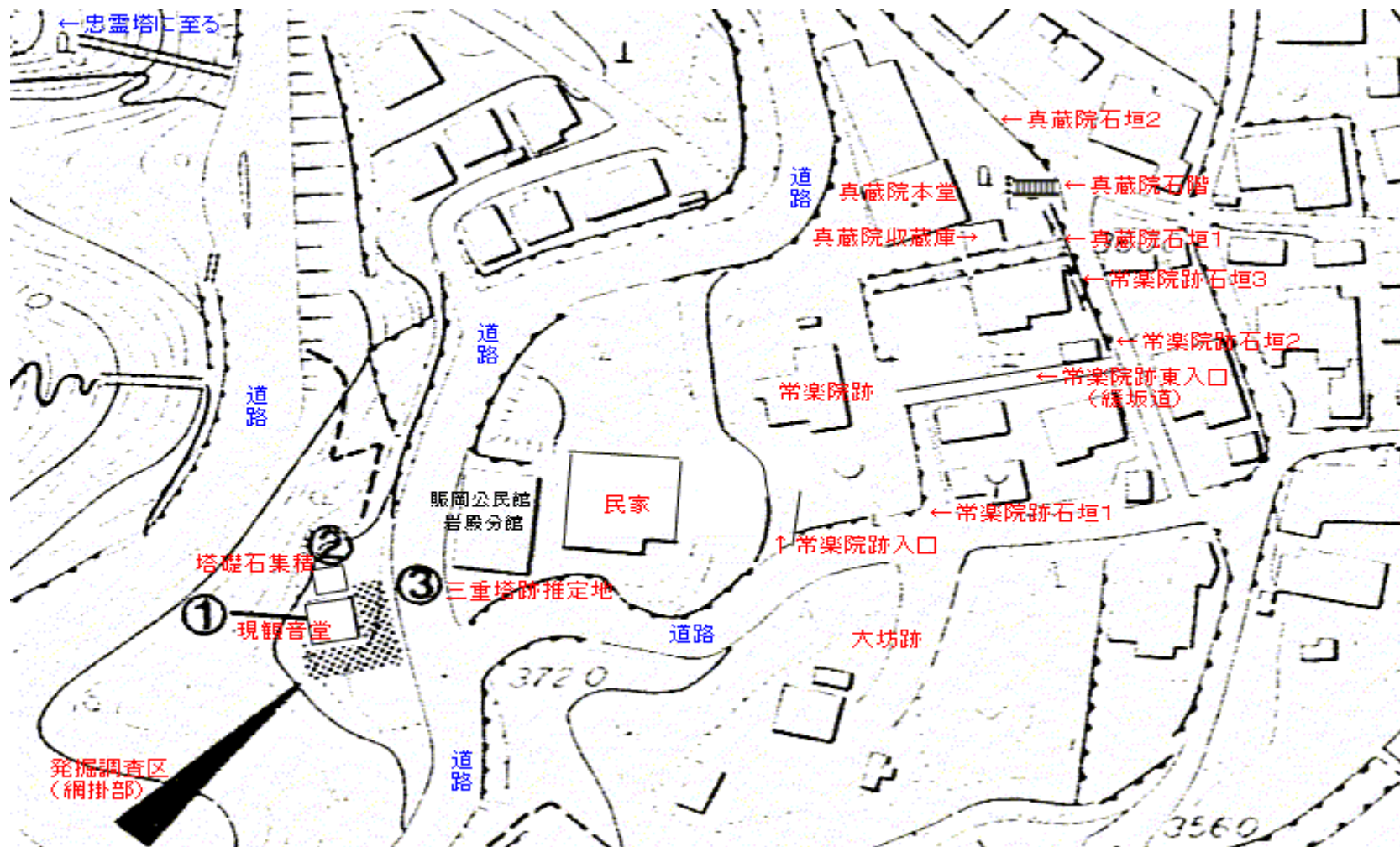
かつて岩殿山全体を法域としていくつもの伽藍を有していた円通寺の別堂・常楽院の内庵だったお寺です。円通寺は応永年間(1394～1428年)には、修験道の関東の中心地として栄えました。真蔵院には「七社権現立像」「木造十一面観音像」が伝えられています。



岩殿山古絵図



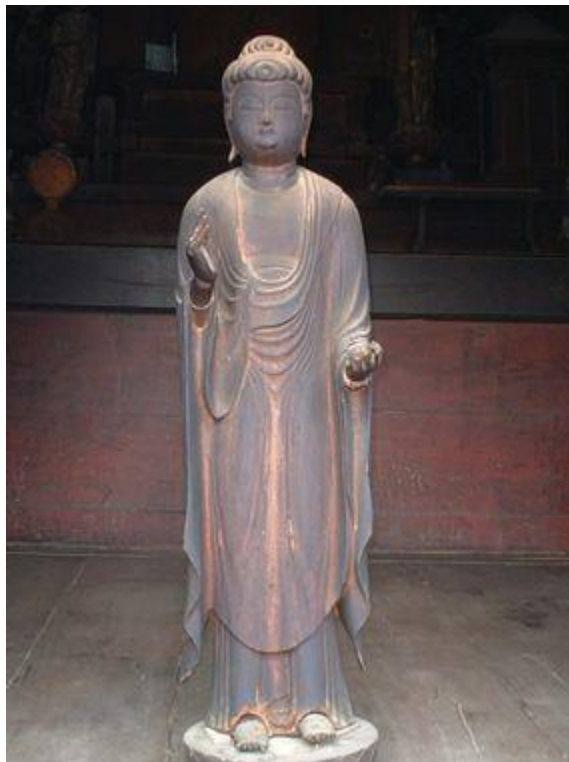
円通寺跡概要図：下記の写真はこの図の概要を撮影したものである。







宝鏡寺 薬師堂 十二神将像
(鎌倉時代推定) 像高70cm前後
大月市指定文化財



薬師如来は
立像で、ヒ
ノキの一木
造、像高
116cmとい
うことらし
く、平安期
の像のよう
だ。



大月市七保町にある宝鏡寺薬師堂
(山梨県指定文化財)



『和田合戦図』([二代目歌川豊国画](#))







聖護院道興歌碑



宮川橋(みやがわはし)

「宮川橋の一目富士」と呼ばれ
旅人に評判であった。この橋を
渡ると中初狩宿に入る。





桂林寺(けいりんじ) 都留市金井

臨済宗妙心寺派。山号は富春山(ふしゅんざん)。本尊薬師如来。開山は格智(かくち)で、永享5年(1433)没。開基は小山田弥二郎富春で、法名は桂林寺桂堂香公居士(甲斐国志・寺記)。

富春の没年について、「寺記」は天文12年(1551)としているが、「甲斐国志」には「卒年不詳」、「甲斐国志草稿」には格智と「同時ノ人ナラン」とあることから、その没年には疑問の余地が残る。

福泉寺(ふくせんじ)臨済宗建長寺派 / 山梨県大月市七保町葛野

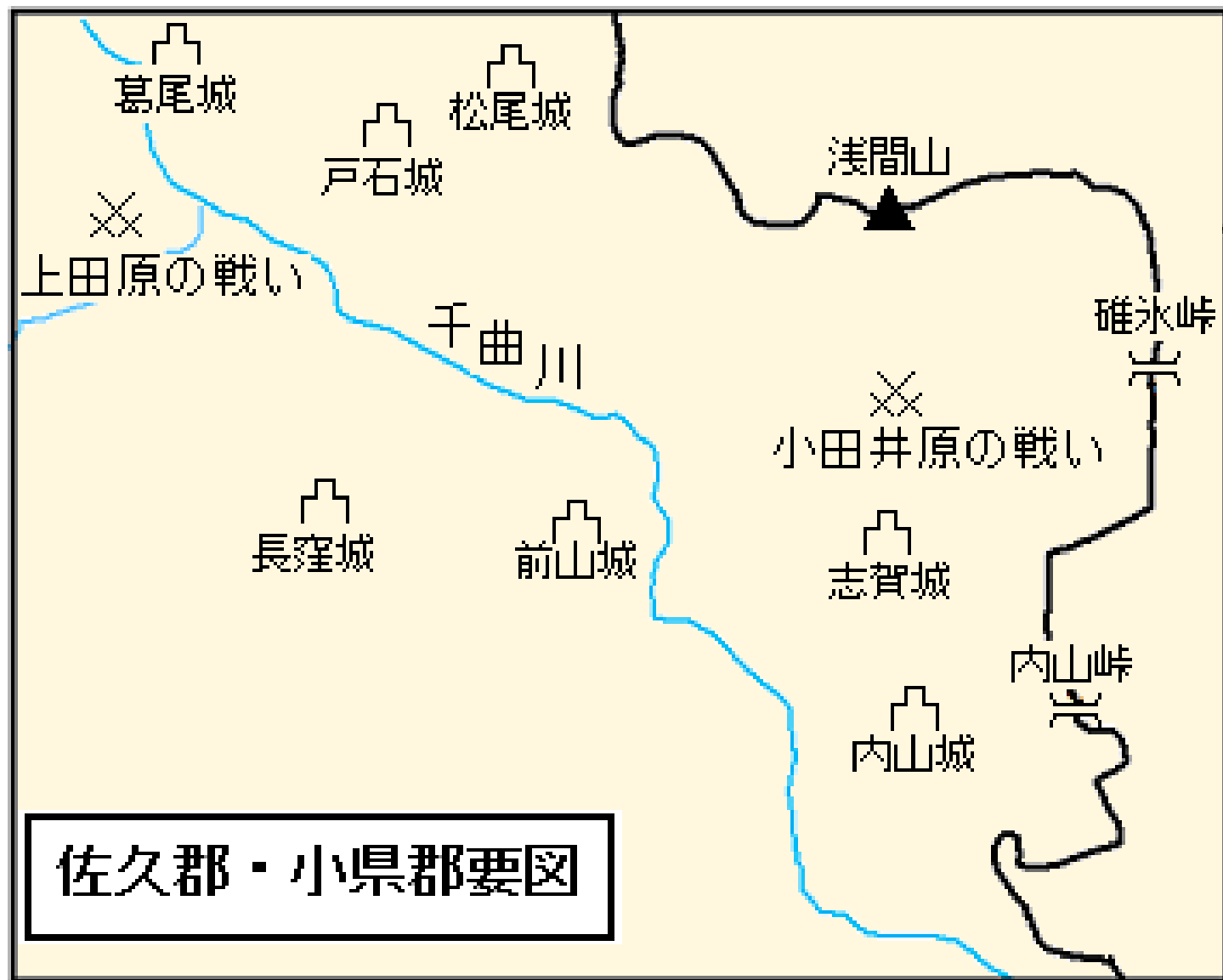
石柱の先になだらかなスロープの参道。1396年(応永4年創建)



本堂。
本瓦葺き、寄棟造り屋根、平入り。
大棟、降り棟が富士山のシルエットのようです



豪壮な庫裏。
かつては茅葺屋根だったのが、
金属屋根で覆われているようです





大善寺～山梨県で一番古い建造物(ブドウ生産発祥の地)

三人の辞世の句

黒髪の乱れたる世ぞ、果てしなき思ひに消ゆる露のたまの緒 相模(勝頼夫人)
朧(おぼろ)なる月のほのかに雲かすみ、晴れて行くへの西の山の端 武田勝頼
あだに見よ。誰もあらしの桜花。咲きちるほどは春の夜の夢 武田信勝(勝頼嫡子)

天目山の戦い



現在では国道20号線が、ほぼ旧甲
州街道に沿って開設されていますが、
鳥沢や笹子峠付近では大幅にルート



新寡獨處

一、城郭家を焼燬す

治世むかし一書

事

大政官

定

一 人たるもの 五輪之
道 正しくす

一 一
 蝶暮孤独 瘴疾の
 ものを憫む過ぎ事
 人越殺 家を焼 財を
 盗む等之悪行 阿ま
 ましく事

慶應四年三月 太政官

振分荷物

メンバ

[illegible]

街道沿いの風景

享保9(1724)年に甲州全域が幕府直轄領となり、甲府勤番が設置されるようになると、江戸と甲府との往来が盛んになり、急速に江戸の文化がもたらされるようになりました。多くの文人・墨客も訪れ、街道沿いの風物を題材とした作品も数多く残されました。

街道をゆく人々

甲州街道は、軍事上の必要から整備されたもので、街道沿いの住民にとって、税や出役の負担はとても大きなものでした。やがて平和な時代が続くとともに、江戸と甲州を行き交う人々も増え、交易や観光、富士講や善光寺詣りなど信仰や巡礼の道としても利用されました。



笠



わらじ



メンバ



旅分荷物

甲州街道
備がすめ
本機から下
の)の道程と
その間、4
うち親大月
・鎌倉・鶴
・下初野・
海道・黒野
の一帯が基
現在では
甲州街道に
鳥沢や孫子
変更されて
緒などに
の形を残し

甲州道中分間延絵図(第4巻)猿橋宿





(芭蕉甲州谷村へ)

正保元年（1664）伊賀上野赤坂で農家であった松尾家の次男として誕生。

芭蕉は、家にさほどの資産はなかったので、藤堂新七郎家に奉公にでる。奉公先で、芭蕉は、新七郎家の嗣子良忠（俳名蟬吟）に仕えるようになり、蟬吟と共に、北村季吟の弟子となり、俳諧の道を歩み出す。

23才の時、仕えていた良忠が死去。芭蕉の人生は大きく狂い、やむを得ず実家に戻るようになった。29才の時、江戸に下った。

当時の江戸は多種雑多な人間が集まる新興都市であった。芭蕉は、江戸の魚屋杉山杉風の庇護を受け、俳諧師となる。俳号を「桃青」とする。

37才の時、性格的に合わず俳諧師の職を辞し、深川に庵を結ぶ。天和2年（1682）の暮れ、芭蕉39才の時、江戸駒込大円寺から発生した大火によって芭蕉庵も類焼し、命からがら難を逃れたがこれまで芭蕉を支えた支援者のほとんども罹災した。丸裸になった芭蕉は、秋元氏家老の高山傳右衛門（俳号、麁埒＝じび）の招きで谷村を訪れることになった「芭蕉の弟子」。

天和3年（1683）芭蕉は、俳諧の弟子の芳賀一晶と共に、谷村への旅に出た。この谷村来訪は、芭蕉の有力な弟子であった宝井其角が芭蕉の追善として編纂した『枯尾華』に「夏の半ばに、甲斐が根にくらして云々」とあるように、初夏の頃であったとされる。



宝永五年戌子上花咲
献〇〇庚待
(一七〇八)

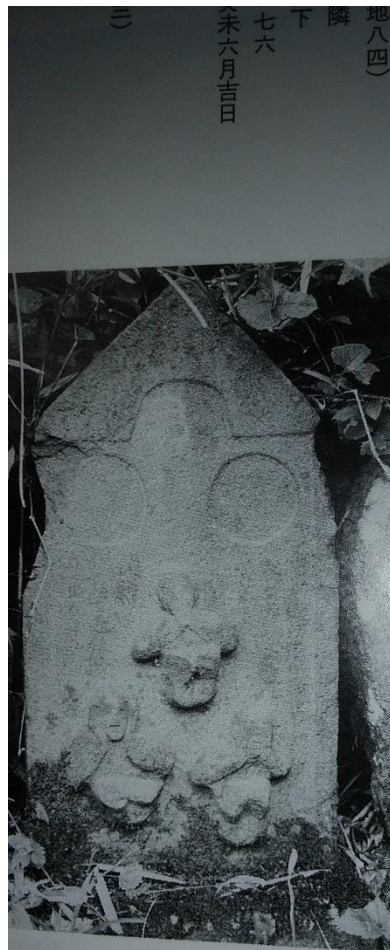


28 三猿塔

(連四六種六地八四)
振岡町強瀬川隣
中央道高架下
二〇×三五×七六
元禄十六癸未六月吉日
山王権現
当村中
(一七〇三)

30 三猿塔

(連九一種五一地一一)
初狩町中初狩神戸 墓地西側予峠道
一二×三二×五八
一一一三



29 三猿塔

(連九四種五四地一三九)
振岡町東奥山小和田 (東光寺)
一四×二八×六一
一一一五



三体の三猿塔のうち、初狩の神戸地区のものは、「作・左甚五郎」という伝承が残されているとのこと。右側は、**元禄16年(1703年)**です。左 甚五郎(ひだりじんごろう、ひだのじんごろう)は江戸時代初期に活躍したとされる伝説的な彫刻職人。日光東照宮の眠り猫をはじめ、甚五郎作といわれる彫り物は全国各地に100ヶ所近くある。しかし、その製作年間は安土桃山時代 - 江戸時代後期まで300年にも及び、出身地もさまざまであるので、左甚五郎とは、一人ではなく各地で腕をふるった工匠たちの代名詞としても使われたようである。実在の人物として記述している文献も見られる。実在の人物であり貝塚生まれであるということを実証する資料として西光寺(香芝市=奈良県)鳳凰の欄間がある



木喰上人自刻像

1804年(86歳の
時)鳥沢に住し、葛
野川筋に19の作品
を残したと言われて
おります。1861年
明治維新

出生から諸国廻国

木喰の生誕地、丸畑地区

1718年（享保3年）、甲斐国東河内領古関村丸畑

（現在の山梨県南巨摩郡身延町古関字丸畑）の名主伊藤家に生まれる。丸畑は甲斐国南部・河内領に属する山村で、甲斐・駿河間を結ぶ駿州往還（河内路）と中道往還を東西を結ぶ本栖路（現在の国道300号）が通過する。

父は六兵衛で次男。幼名は不明だが、木喰の生涯については自身の残した宿帳や奉経帳記録や自叙伝である『四国堂心願鏡』、各地に残した仏像背銘などから、かなり詳細にたどることができる。1731年（享保16年）、14歳（数え年、以下同）の時、家人には「畑仕事に行く」と言い残して出奔（家出）し、江戸に向かったという。

『心願鏡』によれば、1739年（元文4年）、22歳の時に相模国（神奈川県伊勢原市）の古義真言宗に属する大山不動で出家したという。「木喰」と名乗るようになるのはそれから20年以上を経た1762年（宝暦12年）、彼はすでに45歳になっていた。この年、彼は常陸国（茨城県水戸市）の真言宗羅漢寺で、師の木食観海から木食戒（もくじきかい）を受けた

強瀬の全福寺

(耳塚観音像と説明版)



甲陽鎮武隊が甲府に向う途中に全福寺住職 齊藤一諾斎(秀全)が甲陽鎮武隊に参加。
境内には幕軍同士で戦いで敗戦した幕兵10数名の耳を吊った耳塚観音が立つ。



大正12年9月1日 関東大震災発災直後



昭和17年6月、日本軍はミッドウェー作戦の時に
米ソの連絡遮断、敵の航空基地の利用を阻止するために、
日本軍は同時作戦にてアリューシャン列島の
米領土であるアッツ島(守備隊1600名)とキスカ島(守
備隊6000名)を攻略し占領します。
山崎部隊長、遺書を残しての赴任であったとのこと

このアリューシャン列島というのは夏は濃霧、冬は暴風雪が荒れ狂い、世界で最も軍事行動に不向きな場所です。
米軍の反攻を察した大本営は北方の護りを固めるために、アッツ島、キスカ島に対して守備隊の増強を図りますが、米軍による輸送
船の撃沈で思うように輸送できず、アッツ島では約2600人の日本軍で、約20000人の米軍を迎え撃たねばならなくなりました。アッツ守
備隊は北海道第7師団から分派されてきました。**守備隊長の山崎保代大佐(都留市出身)**は4月18日にアッツ島に着任します。米軍
は3日間で陥落させる予定でしたが、思いがけない日本軍の大反撃を受け、多くの犠牲を強いられた上で、アッツ島を奪うことができ
ました。日本軍の鬼神にも勝るその奮闘ぶりは、「日本武士道の精粹なり」として、その後の米国やソ連で感銘を受けたといひます。

**この戦いは大東亜戦争における日本軍の最初の玉砕であり、5月30日の大本営発表で「玉砕」と初めて表現されま
した。**アッツ島の山崎大佐から大本営宛ての最後の電報について、杉山参謀総長は宮中に参内し、陛下に奏上しました。

電文の内容は次のようなものでした。

「自分は、アッツ島守備の大命を拝し守備にあたっまいりましたが、米国海兵隊三個師団が上陸し、任務を全う出来なくなっていま
いました。誠に申し訳ありません。明朝を期して全軍で突入しますが、同時に一切の通信機を破壊し、暗号書は焼却します。皇国の無
窮をお祈りしております」

陛下はこの報告を静かに聞かれ、そしていくつかの質問をされた後、最後に

「アッツ島の山崎部隊長に電報を打て。アッツ島部隊は最後まで非常によくやった。そう私が言っていた、と打て」

「しかしすでに山崎部隊は玉砕した後で、もうこの世にはいません。またたとえ電報を打ったとしても、

通信機も壊されていますから絶対に届くはずがありません」おそれながらもそのように申し上げると陛下は

「届かなくてもいいから、電報を打ってやれ」陛下の御心に触れた杉山参謀総長は、はっとしたその瞬間に涙があふれ出て止まらず、

陛下のお言葉を手帳に書き写すこともできなくなったといひます。



1945年8月14日、日本のポツダム宣言受諾を
発表するトルーマン

ポツダム宣言（ポツダムせんげん、[英](#): Potsdam Declaration）は、[1945年](#)（昭和20年）[7月26日](#)に[アメリカ合衆国](#)大統領、[イギリス](#)首相、[中華民国](#)主席の名において[大日本帝国](#)（[日本](#)）に対して発された、「[全日本軍の無条件降伏](#)」等を求めた全13か条から成る宣言である。正式には**日本への降伏要求の最終宣言**（Proclamation Defining Terms for Japanese Surrender）。

他の[枢軸国](#)が降伏した後も交戦を続けていた日本は、1945年[8月14日](#)にこの宣言を受諾し、1945年[9月2日](#)に調印・即時発効（[降伏文書](#)）に至って**第二次世界大戦**（[太平洋戦争](#)/[大東亜戦争](#)）は終結した。

[ソビエト連邦](#)は後から加わり追認した。宣言を発した各国の名をとって、「**米英支三国共同宣言**」^[1]ともいう。↑



開戦時の日本首相 東條英機



炎上する戦艦 アリゾナ



連合艦隊司令長官山本五十六海軍大将



日米開戦時の ルーズベルト米大統領



B-29 爆撃機



広島に投下された原爆(リトルボーイ)



厚木に降り立ったマッカーサー



マッカーサーと昭和天皇の会見写真

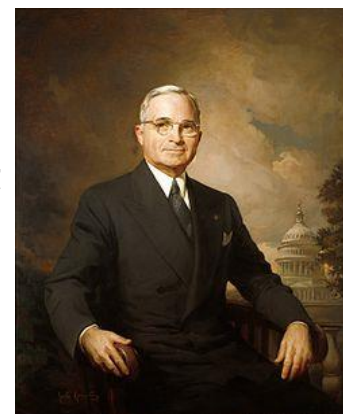


広島上空で炸裂した原爆



石段に残った人の影

トルーマン自身は生涯、原爆投下を正当化し、アメリカでは未だに「戦争を早期終結に導きアメリカ将兵の命を救った大統領」という評価が定着している。



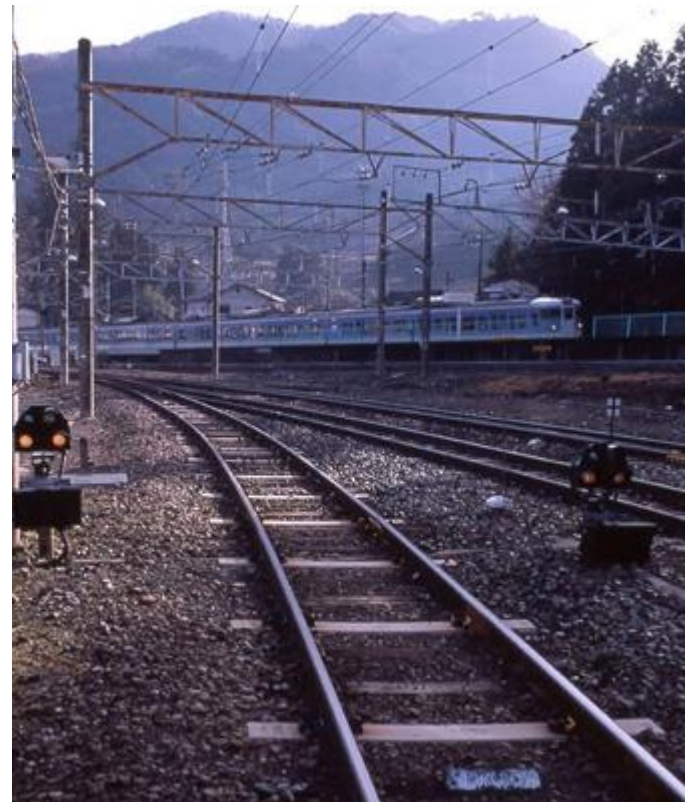
中央本線は鉄道敷設法が公布された明治25年(1892)、東京から塩尻を經由し、名古屋を結ぶ幹線鉄道として計画されました。最急勾配は25‰で、中部山岳地帯を通るため、必然的に急峻な山岳越えが強いられます。特に中央東線と呼ばれる東京～塩尻間には長大な笹子トンネルがあり、小仏、初狩、笹子、勝沼、韭崎、新府(しんぷ)、穴山、長坂、東塩尻の9つのスイッチバック式停車場が設けられ(後年の設置を含む)、初狩は明治41年(1908)7月に信号場として開設。2年後に駅に昇格しました。

しかし、複線化により、列車が直通できるようになるとスイッチバックは不要になり、電化の際、勾配の本線上にホームを設け、粘着性能のいい電車のみを発着させることで、中央本線は昭和40年代にほとんどのスイッチバックを廃止しました。

初狩駅も昭和43年10月に旅客ホームを25‰の本線上に設けました(当時の運輸大臣の認可を得た特例)が、同駅には首都圏路線の軌道の**バラスト(碎石)**を製造する碎石工場があり、ここから出発する碎石輸送列車のために、スイッチバックの施設が今でも残されています。

駅の佇まいは、ホームが無くなった程度で、スイッチバック時代からほとんど変わっていません。かつて客車列車が機関車に牽かれ、スイッチバックで行ったり来たり。笹子では名物の「笹子餅」を買って……。そんな中央本線の一昔前の旅姿が今に甦ります。

●交通 中央本線 初狩駅下車 交通新聞社HPから





市立大月短期大学の正門JR大月駅から徒歩5分、
立地条件に恵まれています



日当たりが良く設備が充実するC号館、情報処理、
一般・専門科目、演習や語学など多くの授業がこ
ちらで行われます

1955	30	市立短期大 学創設		
1956	31	市立大月高校開校(普通 科・商業科)		



◆ 感 謝 ◆

大月短期大学附属高等学校は、平成26年3月31日をもちまして閉校となりました。
58年間 ありがとうございました。これまでのご支援、ご協力に対し厚く感謝申し上げます。



1964

39

第18回オリンピック競技大会10月10日(体育の日)から10月24日『東京オリンピック』



平成24年8月13日、大月市行願寺において、大月空襲で犠牲になった旧制都留中学と都留高等女学校の生徒・職員等の慰霊法要が行われた。



計画発表後26年を経過した2004年(平成16年)に完成した。相模川水系では最も新しいダムである。ダムの型式は重力式コンクリートダム、堤高は87.0mである。補助多目的ダムであり、目的は葛野川流域の洪水調節、葛野川流域の慣行水利権分の農業用水補給・葛野川の河川流量維持を目的とした不特定利水、及び大月市・上野原市への上水道供給である。

シオジの森ふかしろ湖と命名された。シオジとはモクセイ科の落葉広葉樹であるが葛野川流域はシオジの天然林が広く自生している流域でもあった。このシオジは地域のシンボルでもあり、新たに誕生した人造湖の名称を検討していた際に大月市や水没住民による組織「深城ダム対策委員会」、さらに流域住民から「シオジ」の名を入れるよう要請があった。山梨県はこれを受け入れて湖名を決定したという経緯がある

1973年12月中央自動車道完成 路線名・道路名[編集]

高速自動車国道の路線名(法定路線名)としての中央自動車道は、東京都を起点に3方向に分岐する富士吉田線・西宮線・長野線の3路線から成る。

路線名

起点

重要な経過地

終点

中央自動車道富士吉田線

東京都

杉並区 東京都世田谷区 三鷹市 調布市 府中市 国立市 日野市 八王子市 相模原市 上野原市 大月市 都留市 山梨県南都留郡富士河口湖町 富士吉田市

中央自動車道西宮線

甲州市 笛吹市 甲府市 甲斐市 韮崎市 北杜市 茅野市 諏訪市 岡谷市 伊那市 駒ヶ根市 飯田市 中津川市 恵那市 瑞浪市 土岐市 多治見市 春日井市 小牧市 岩倉市 一宮市 羽島市 大垣市 岐阜県不破郡関ヶ原町 米原市 彦根市 東近江市 湖南市 野洲市 栗東市 草津市 大津市 京都市 向日市 長岡京市 高槻市 茨木市 吹田市 豊中市 尼崎市 西宮市

中央自動車道長野線

塩尻市 松本市 安曇野市 千曲市 長野市



大正期の大月駅

大月駅の歴史



JR駅舎(2012年12月)

1902年(明治35年)10月1日 - 国有鉄道中央本線 鳥沢駅・当駅間開通と同時に開業。旅客及び貨物の取り扱い開始。

1903年(明治36年)1月17日 - 駅前に富士馬車鉄道(後の富士電気軌道)が乗り入れ。

1928年(昭和3年)1月1日 - 富士電気軌道が大月・富士吉田間を富士山麓電気鉄道(現・富士急行)に譲渡。

1929年(昭和4年)6月19日 - 富士山麓電気鉄道 当駅・富士吉田駅間開通。元富士電気軌道の大月 - 富士吉田間廃止。

1984年(昭和59年)2月1日 - 貨物の取り扱いを廃止。

1986年(昭和61年)11月1日 - 中央線快速電車の一部列車が当駅まで運転区間を延長。

1987年(昭和62年)4月1日 - 国鉄分割民営化により、中央本線の駅は東日本旅客鉄道の駅となる。

1990年(平成2年)3月10日 - 中央線快速電車の一部列車が当駅から富士急行線に乗り入れ開始。

1997年(平成9年)

10月12日 - 大月駅列車衝突事故が発生。

日付不明 - JR東日本の駅が「関東の駅百選」に選定される。選定理由は「丸太を組み合わせ、周辺の山々の中にとけ込んでいる駅」。なお、富士急行の駅は選定対象にはなっていない。

1999年(平成11年)4月8日 - 天皇・皇后およびルクセンブルク大公の山梨県訪問に伴う1号御料車編成のお召し列車が、当駅から原宿駅間に運転される。EF5861牽引^[1]。

2001年(平成13年)11月18日 - JR東日本でICカード「Suica」の利用が可能となる。

2002年(平成14年)10月1日 - 開業100周年。大月駅・猿橋駅開業100周年イベント開催。立川・大月間に展望形電車「四季彩」を使用した「快速大月駅開業100周年号」を運転。

2012年(平成24年)6月15日 - 大月駅周辺整備事業による大月駅前広場が供用開始。

2015年(平成27年)3月14日 - 富士急行でICカード「Suica」の利用が可能となる。

明治以降に山梨県で起きた主な水害を調べましょう

年代水害の被害状況

1868年(明治元) 7月 釜無川・御勅使川などの大洪水により、中郡を中心に浸水被害。

1876年(明治9) 9月 暴風雨により荒川、桂川、釜無川が増水、堤防が計（**676**箇所）で決壊。死者7人。農作物に大被害。

1878年(明治11) 9月 豪雨により笛吹川、富士川などで洪水。堤防決壊（**61**箇所）。道路流没1500間。

1881年(明治14) 9月 暴風雨により富士川、釜無川、笛吹川などで堤防が決壊、農作物が大被害。

1882年(明治15) 9月 豪雨により県下の各河川で洪水、死者・行方不明者6人、堤防決壊（**4411**箇所）、堤防

筋は惨状を極める。

1885年(明治18) 8月 暴風により県下各河川が氾濫。死者（**29**人）。山岳等の崩壊1900箇所。

1892年(明治25) 7月 笛吹川、釜無川、御勅使川流域で大洪水。死者6人。山岳崩壊箇所多数。

1896年(明治29) 9/6～12 台風豪雨により釜無川流域、特に御勅使川流域で大出水。塩川上流では大崩壊が発生。

死者（**33**）人。

1898年(明治31) 9/4～7 滝のような豪雨で県下の各河川が氾濫。北巨摩郡を中心に山岳の崩壊多数。

死者（**150**人）。災害後（**赤痢**）が流行。

1907年(明治40) 8/22～28 台風により県下全域で河川が氾濫し、未曾有の災害となる。特に日川、重川、御手

洗川流域で被害甚大。死者（233）人。家屋全壊・流出（5767）戸。

1910年(明治43) 8/2～17 台風と前線による連日の豪雨で荒川、塩川が大氾濫。

甲府市をはじめ盆地の南部一帯で甚大な被害。死者24人。

1912年(大正元) 9/22～23 台風により中巨摩郡で被害甚大。死者（**50**）人。負傷者111人。

農作物や家畜の被害も甚大。

1920年(大正9) 8/2～6 台風豪雨により道志村で日向山が大崩壊。

交通路の途絶で村の通信は対岸と（**矢文**）で行う。死者14人。

1934年(昭和9) 9/18～21（**室戸**台風）により県下全域で被害。死者13人。家屋全壊507戸。

農作物被害は25,892haにのぼり、（**ブドウ**）はほぼ全滅。

1935年(昭和10) 8月 台風により死者7人。床下浸水28戸。田畑浸水60ha以上。

9/21～26 台風と前線による記録的豪雨（総雨量 4 2 0 mm）で全県に著しい被害。死者39人。

各所で堤防・道路の流出・決壊・破損。

1936年(昭和11) 9/26 終夜継続の大雨により（笹子峠）で山崩れが発生，14人が生き埋めとなる。
全県で死者22人。

1945年(昭和20) 10/3～5 前線・台風豪雨により戦時中の樹木過伐で荒廃した山林が各所で崩壊。

土砂倒木の流出で河川が氾濫。死者16人。

1947年(昭和22) 9/13～15（カスリン 台風）により笛吹川上流および重川・日川・御手洗川・笹子川流域

で大被害。死者16人。

1950年(昭和25) 8月 豪雨により笛吹川上流部および重川・田草川また南都留郡谷村町で大きな被害。

死者7人。行方不明者1人。家屋浸水1471戸。土木被害7億3000万円。

1959年(昭和34) 8/12～14 台風7号により1907年（明治40年）以来の大被害。特に釜無川・大武川・早川・重

川で土石流による被害甚大。死者（90人）。負傷者794人。被害総額314億7300万円
9/24～26 台風15号（伊勢湾 台風）により被害が拡大。死者15人。被害総額89億2800万円

1961年(昭和36) 6/23～29 梅雨前線豪雨により東山梨郡の大沢山で崖崩れ，倒木と土砂が西の沢をせき止め，29

日土石流となって牧丘町（北原 地区）を襲い，死者5人。

1966年(昭和41) 9/21～25 前線・台風26号豪雨のため足和田村（根場 地区）等で土石流が発生。

死者（175人）。被害総額275億円。

1982年(昭和57) 8月 台風10号豪雨により大月市浅川地区，秋山村無生野地区で土石流が発生。

早川の氾濫で早川町の一部が孤立。死者7人。

1983年(昭和58) 8月 5号・6号と続いた台風の豪雨により大月市，富士吉田市の東部で被害拡大。

道路・鉄道等全交通機関が普通。死者3人。

1991年(平成3) 8/1 台風12号の豪雨で最大日雨量（395 mm）。大月市の国道20号で土砂崩壊。死者7人。

被害総額127億5170万円。

2000年(平成12) 9月 秋雨前線と台風14号による大雨で県の中西部に被害集中。床上浸水102棟。床下浸



2017 年	平成 28年				
		8月8日、台風5号、賑岡町岩殿午後4時20分までの1時間104ミリの豪雨、岩殿山幾筋か崩落、道路寸断。大月駅線路冠水。			

今年で没後50年となる大月市出身の作家、山本周五郎(1903～67年)の生地、同市初狩町のJR初狩駅前に文学碑が完成し、27日に除幕式があった。約50人の参列者が周五郎をしのいだ。

地元市民でつくる「初狩ファンクラブ山本周五郎研究会」(天野俊一会長)が中心となって建立した。地元で採れた自然石の安山岩(高さ約140センチ、横幅約70センチ)





Uzaki Ringyo

卯月林業

側

御2

これからの大月市をのぞいてみたら

①自然景観良い(観光客誘致＝滞在地としての方法模索)

・ハイキング、魚釣り、築場での鮎捕りなど、夏場(通年)の観光地として情報発信する

・冬場は、囲炉裏がある古民家を活用して、体験活動をする。(草鞋つくり・民話の読み聞かせ等々)

②沢の利用(沢登り、着いたところでのバーベキュー等)

③各山の山頂を繋げてのトレイルラン大会、または山頂においてのキャンプ体験(夜空の星の観測等)

④休耕田、畑を貸していただいたの農業体験活動を年間通して体験して空き家の年間利用の促進(市商工会、観光課、農協、エコの里等と協働する)

⑤NECの工場を中心としてのIT企業活動の会社の誘致をする(働き方改革＝自宅勤務、サテライト勤務、会社に出勤しないでの勤務も可能＝通勤時間の短縮・市内に住んでいる親御さんの近くで生活してもらうように、息子さん、娘さんを駅周辺の空き家に戻っていただくように働きかける)

⑥福祉に力を入れて高齢者に優しい町(自助)と、支え合い(近所)と、助け合い(協働)の街作りを実践していく(空き家を活用して、田舎生活を希望している方に借りていただく)安全、安心な街(支えあい・助け合い・もたれ合い＝三愛の街づくり)何とかしたいですね。

大月市は、人口減少地区県内最大手とのこと、これを返上するには、皆さん大月市の良さを、情報発信し他地域の方や、本地区の生活者の皆様に伝えて行きませんか。その為には、大月市全体を良くしようと、市民一丸となって考え、身近で、一人でも取り組めるところから実行していくことが、大事であると思います。

例えば、

- ①子供が小さい時から、家庭で言って聞かせる。その為には、自分達が大月市の政治・経済、歴史、伝統・文化を知る。
- ②夏休み、冬休みに子ども、孫達が返ってきたら、①のことをしっかりと聞かせてその場所に連れて行ってやる。
- ③昔は、囲炉裏端で爺が、茶碗酒（？）でも飲みながら、いろいろ話してやった。今は、テレビを消し、ゲームもさせずに、爺婆の話を聞かせて、ご先祖があるから今がある、命の連続性（埼玉県のある小学校6年児童0歳児から2歳児までの乳幼児と母親らと触れ合う）を話してやる。
- ④子どもには、生まれ故郷を大事にしてな、孫にはこの場所（爺達が住んでいる場所）は、こんなに良い所だぞ、と言って聞かせ、見せて故郷回帰の心を育てる

このようなことが大事だと、勝手に思いました。ご清聴ありがとうございました。